

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月～金 10～17時



## 私たちができること～東日本大震災の被災者との交流を通して～

今回、東日本大震災で被災され、愛知県へ避難されている方々との交流を通して、震災から1年半たった今でも、苦しんでいる方々が多くいることが分かりました。生まれ育った故郷へ帰りたけれど、帰ることができない。避難して新しく始めた暮らしにはまだなかなか慣れることができない。そんな思いが伝わってきました。愛知県は、私にとって生まれた時から慣れ親しんだ場所です。でも、被災者にとっては新しい風景も人々も、故郷と異なる地域性があるようです。今心から安心して暮らせているのだろうか、と感じました。様々な理由でまた他県へ引っ越す方もいたそうです。これからは愛知で暮らす方は、「どうしていけばいいのか分からない」、「この場所で家族と共に暮らしていくことを決めました」と話してくださいました。

「故郷に帰れない、故郷を失うこと」は、大切な人を失うのと同じくらい心に穴が空いてしまうのではないかと、思います。震災後、命は助かったけれど、故郷や大切な人を失い、今後の見通しができず自殺された方も友人の中にはいると、被災者から聞きました。津波で流された町、今でも残る瓦礫の山、放射性物質は安心して暮らせるようになるまでには何百年とかかり、復興といえども実際にもとの場所へと戻るまでには、長い時間や多くの支援が必要、私たちが生きているうちには困難だろう、と語っておられました。それでも、きっと、被災者の皆

様が暮らしていた町、見慣れていた海、山などの自然、人々の笑顔は消えないで、今も心の中に残っていると、思っています。

私も20歳の時に、岩手の陸前高田市に運転免許の合宿で半月ほどお世話になりました。その時の海や、田んぼや山、教習所の先生、出会った友達、合宿先のおばちゃんのことを今でも覚えていています。被災者の一人ひとりの記憶に残っている故郷を、もっと知りたいと思っています。東北での地域の伝統行事、知恵などの話を聞き、私たち愛知県のことも伝えたいです。こうした行事に参加していく機会も、作っていきたいと思っています。

被災者の中では、悩んだり苦しんだりしている人が多くおられる中で、このような交流会を通して、一人で考え込まず、住みやすい場所にしていくためにはどうしたらいいのか、共に考えていけるような機会がもっとあるといいと思います。きっと機会がないだけで、何か協力したいと思っている人はたくさんいると思います。

また、人々の心に元気と癒しをテーマに音楽活動をしている私にとって、話を聞いたり、音楽を通して、少しでも被災された方の心の癒しになる活動も行っていきたいと思っています。

(フォークデュオ ひまわり YOKO)



### スイセン植込みイベント交流会

俳優の柳生 真吾さんが始めたスイセンプロジェクトを、(株)日比谷花壇が共感して、「5 for 5」を企画。水仙の球根を5球購入したら、被災地に5球贈られるというもの。この企画に賛同して愛知県でも実施することになり、2000年に発生した東海豪雨水害の被災地で、水仙の移植活動を続けている名古屋市西区のあし原公園にて実施しました。

実施日：2012年11月17日(土)

会場：名古屋市西区 あし原公園

※但し、この日はあいにく雨天にて中止。近所の喫茶店「和」にて避難者と支援者の交流会を実施し、11月20日に球根を植えこみ日としました。

### 第3回 ゆるりっと会に参加して

11月18日の良く晴れた日曜日。7歳の長男と2歳の次男を連れて、小牧市の社会福祉協議会福祉センターで行われた第3回ゆるりっと会に参加しました。愛知県に避難して早や1年8ヶ月が過ぎましたが、こういった被災者を対象にした集まりに参加するのは、初めてでした。

まず実行委員会の方の挨拶から始まり、次に参加された方々が今住んでいる地域・出身地・名前を簡単に自己紹介して、それぞれ自由に話しをしました。今回が3回目ということで、以前の回に参加された方たちも多く、すでに打ち解けた雰囲気があり、最初は少し気後れを感じましたが、一人でぼんやりすることがないよう、スタッフの方が常に気を配っていただき、話の輪に入ることができました。

その後、コープあいちの方が、自宅の食事を使って放射性物質が検出されるかどうかの実験をされた結果の発表を聞きました。検査の対象となった18都県の内、放射性物質が検出されたのは福島県だけ。複雑な気分になりました。

昼食は、ボランティアの方とスタッフの方たちが朝早くから作ってくださったおにぎりとお汁と卵焼き、そして、参加者の一人の方が手作りのさんまのつみれ汁とお漬物をご好意で用意してくださいました。更に食後のみかんにお菓子まで。お腹いっぱいいただきました。

午後は、別室で安全な土を使ったブロックリーの鉢植えや、木工教室などがあり、興味あるものに好きなように参加する形式で、そちらに参加する方、最初の部屋で原発事故の補償の問題等を弁護士の先生方に相談される方、と思いいいに過ごしました。

会は終始和やかに進み、その名の通りゆるりとした雰囲気の中で落ち着いて過ごすことが出来ました。



皆さん、一人ひとり境遇が違えば悩みも違うので、集まりに参加して話をしたからと言って、すぐに悩みが解消されるわけではありません。それでも普段周りにいる友人知人とは違い、震災と津波、それに続く原発事故によってそれまでの生活を一変されてしまったという共通の体験をもっている方たちと話すことができました。不安なこと心配なことを、こちらの友人には言いにくいことなどを、共感をもって聞いてもらえ、それだけでも自分の気持ちがすっきりと整理されたように感じました。参加して良かったです。

普段外出する時は、下の子がじっとしていることができないため、目が離せず落ち着いてられないのですが、ゆるりっと会では、託児のシステムがしっかりしていて、ボランティアの方々がほぼ1対1で子どもの遊び相手をしてくださったので、安心して話し合いなどに参加できました。子どもたちも終始機嫌よく、特に上の子は、帰りがけに今日参加した感想を聞かれて、「すごく楽しかった。また来たい!」と即答していました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、この場を借りて、実行委員会の方々やスタッフの方々、またそんな皆さんを支えて下さるボランティアの方々にお礼を申し上げたいと思います。

(五十嵐 裕美 長久手市在住)



## 「いっしょにやりますの集い」第7回準備会

日程：11月25日(日) 11:00～15:00

場所：瀬戸市役所

参加者：30名(避難者4名)

2012年1月、豊橋市在住の今泉さんから、「自主避難者の会」ができないかという呼びかけがありました。初めは何から手をつけて良いか、手探り状態の議論を進めました。その後、豊橋市、名古屋市、岡崎市、一宮市でその地域にお住まいの避難者と支援者を中心に呼びかけて、会議を重ねています。

「つながりづくり」について具体的な話し合いをしよう、という目的ができてきました。今回も、市役所と社会福祉協議会とNPOと当事者のつながりができました。その会議の感想を松本さんに書いていただきました。

瀬戸市役所にて、ということで、近いので子連れで参加させていただくことにしました。近くに避難している方にあまり出会っていないので、「会えるかな」と楽しみにして行きました。

会場に入って、こんなにたくさんの避難者が近辺にみえたんだ…と思ったのですが、紹介が始まって「えっ!?!」でした。避難者はうちを含めて4名のみ。しかも、私の生活範囲からの方はみえませんでした。遠くからのご参加、おつかれさまでした。他に参加されたのは、愛知県被災者支援センターの方、瀬戸市役所の方、瀬戸や他の地域で支援活動に関わっていらっしゃる方、弁護士、司法書士の方などでした。

避難者それぞれが、どんな気持ちをもって避難しているか、どんな活動をしていきたいかななどお聞きすることができました。それに加え、支援者の活動やお考えも知ることができました。「あゆみ R.P. Net」準備会\*に誘ってもらったり、瀬戸

で支援活動されている方とつながりができたりしました。また、その方を通じて、この「いっしょにやりますの集い」には参加されなかった避難者にも、後日出会えたりしています。お互い、置かれた境遇は違いますが、理解し、支え合っている仲間とつながれることは心強いです。

県からの情報が届けられない方も含め、避難者同士も助け合っていく必要を感じました。

子どもを連れてきたのはうちだけで、大変お騒がせいたしました。なかなか私の傍から離れませんが、YMCA 託児ボランティアの方に風船やボールで遊んでもらったり、階段探検も連れていってもらい、楽しめたようです。ありがとうございました。

個人的にも、視野も広がり、良い集いでした。

今回もありがとうございました。

(松本 尚子 尾張旭市在住)

\*) 本誌、4ページ参照

### 「愛知県に住む仲間として」

11月17日に「平成24年度東尾張ブロックボランティア集会」が開催されました。愛知県の東尾張地区のボランティアが一堂に会する集会で、私は社会福祉協議会の職員としてその集会に携わりました。防災をテーマとしていましたので、愛知県被災者支援センターから避難者のIさんを講話の話し手として紹介してもらいました。

Iさんは、愛知県の東尾張地区へ自主避難してこられた方で、お子さんも小さく、まだ若いお母さんでした。Iさんは親戚や友人がいない愛知県へ自主避難してきた経緯や心境を語ってくれました。避難者のイメージはマスコミが伝える仮設住宅のイメージぐらいしかなかったのですが、直接話を聞くことは衝撃的でした。そして、Iさんの苦渋の決断や、気持ちを外に出せなかった苦しみを

思うと涙が出てきました。「避難者」とひとくくりにしがちですが、いろいろな立場の人がいることを知り、それぞれの人が辛い経験をしながらも今も頑張っていることがよくわかりました。

震災経過から、もうすぐ2年となります。忘れてはいけないと言われていても忘れられていく現実がある中で、経験を話してくださったIさんにとっても感謝しています。Iさんの話を聞いた多くのボランティアが、もっと避難者のことを知ろうと避難者の声をまとめた本に目を通していました。同じ愛知県に住む仲間として、またボランティアとして、これから何ができるかを考えていきたいと思います。

(長久手市社会福祉協議会 ボランティアセンター  
磯部 えつ子)

福島原発事故の影響により、愛知県に避難されている皆様へ

## もうひとりじゃない 仲間みんなで いっしょに歩もう

栃木県那須塩原市から避難をしている、井川 景子と申します。

震災からもうすぐ、二年の月日が過ぎようとしています。この二年間は辛いこと、悲しいこと、悔しいことの連続でした。そして、先が見えない不安が、いつも付きまとっていました。私は言えずにいました。心底の不安を。それでも子どもを守りたい、その一心で過ごした月日でした。これまで私達は、本当にたくさんの人達に支えられ、助けられて、生きてきました。こんなにも多くの人達が、私達のことを気に掛け、行動したり声をあげたりしてくれました。その温かさを沢山受けてきた私達も、支援者のご厚意に甘えることなく、今こそ被害当事者として立ち上がる時だと感じています。震災前、皆あの地で自立し、安定した生活を送っていたことと思います。そんな私達、まだ心の傷は治りきっていないけど、「仲間と一緒になら」きっと前を向けるはずです。しゃがみたくなる時には、背中をそっと支えてくれる仲間が、ここにはいます。自分達に覆いかぶさった問題を、自己解決へと向け、皆で力を合わせて前を向いて行きましょう。「言ったところで、どうせ…」、なんて言葉はなしです。言わなければ、個々の要望は埋れたままで、届きません。しかし、ひとりで声をあげても、かき消されてしまいます。そして、心細さもあるでしょう。だからこそ、当事者皆で太い声にするべき必要があります。

例えば、

- 避難先でも、親子共々健康検査を継続して、無料で受けられる権利
- 賠償問題      ○食べ物の安全      ○心の不安面などの苦痛…など

皆で声をあげ、私達が従来送っていた平穏な生活を取り戻すべく、一致団結して共に歩いていきましょう。そして、フラッシュバック、子どもの健康不安、将来の不安などの「心の中の不安」を、当事者だからこそ分かち合い、互いに支えあいましょう。強制避難や自主避難、福島県出身や関東出身などの垣根を超え、子どもの健康を守りたいという同じ志で、『被害者ひとりがみんなの為に、被害者みんながひとりの為に』の気持ちを大切に、さあ！ 団結しましょう！

原発事故被害者支えあいの会 あゆみ R.P. Net 準備会 実行委員長 井川景子

※ メーリングリスト登録申込みは、お名前、出身地、メールアドレスをご記入のうえ下記宛へお願い致します。  
(現在当事者と支援者を合わせおおよそ 50 名の方が参加されています)

〒466 - 0053 名古屋市昭和区滝子町 28 番の 10 号  
司法書士法人よつ葉合同事務所  
司法書士 江里 二郎 (えり じろう)  
FAX : 052 - 883 - 2013  
E-mail : takiko37@nifty.com

※ご登録いただいた個人情報は当準備会の運営及び事務連絡に利用し、それ以外の目的には利用致しません

## 特定非営利活動法人 KI プロジェクト

KI プロジェクトは、東日本大震災が起きてから立ち上がったボランティア団体です。2011年4月に私が友人に誘われ、宮城県岩沼市にボランティアへ行ったのをきっかけに、岐阜県の仲間を集めて毎月ボランティアのバスを出し、すでに18回のバスを出しています。(ボランティアバスは2013年も毎月継続する予定です)

保養活動を始めたきっかけは、福島の方々のためにも何かしたい、という想いでいたときに、今も保養活動を積極的に行ってくれている渡邊さんという女性が、「私たち子育て世代の女性も被災地に何かしたいと思っているけど、制約があってなかなか行くことができない。地元で何かやるのならぜひ手伝いたい」と言ってくれました。それなら、岐阜県に来てもらう活動をしようと、いろいろ調べて保養活動があることを知りました。

今年の夏は、昨年すでに保養活動を実施した「光の帯ネットワーク」と合同で開催しました。「光の帯ネットワーク」が募集した32名の親子を1週間KIプロジェクトが受け持ち合宿を行いました。初めてのことでかなり大変でしたが、たくさんのボランティアの方にご協力いただき、大きな問題もなく終了することができました。

保養活動をするに当たっては、バス代などの費用も多く必要になるので、「ちょこっとボランティアチョコレート チョコボ」という商品を企画しました。売価600円の内半額の300円が保養のための活動資金になる、という商品を販売し活動資金を得ています。このチョコボは資金面だけでなく、保養の必要性を訴えるツールとしても活躍しています。

今後の活動としては、光の帯ネットワークとの合同企画とあわせて、まだまだ放射線の汚染が拡大する中で、たくさんの方々に保養に来ていただけるように、夏休みに単独での保養の開催を計画しています。

また、随時利用していただけるように一軒家を借り上げて、母子で気軽に保養に来てもらったり、移住を考えている方の拠点になる場所の提供もしています。ここは、水道光熱費込みで1家族1000円で使って頂けるようにして、できるだけ避難者の方に負担をかけないようにしています。

今後20年以上に渡って継続して、福島及び周辺に住む方々の命を守るために活動を続けて参ります。私たちにできることはやっていきますので、ご相談やお問い合わせをお待ちしています。

### 連絡先

UPL : <http://www.coms1.jp/blog/33/index.html>

KI プロジェクトで検索

E-mail : [ki-proj@coms1.jp](mailto:ki-proj@coms1.jp)

本部

〒509-1622 岐阜県下呂市金山町金山 1993

事務局

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋

309-5

TEL : 050-3536-5866

FAX : 0574-27-2205

携帯 : 080-3615-6500 (担当: 馬場)

※「あおぞら」第26号(2012年10月25日発行)5頁

福島の子ども保養プロジェクトを継続するために ~ 「みんなで考える集い」を開催して~ 参照



## 「原発事故子ども・被災者支援法」に関するシンポジウム

被災者の一人として、「原発事故子ども・被災者支援法」に関するシンポジウムで発言してほしい、というお声かけをいただきました。

この法律ができたことも知らなかったのに、早速読んでみたがよくわからない。わからない？と質問したら、これは「理念法ですから」と言われてますますわからなくなり、「そもそも理念って何だ？」と「yahoo 知恵袋」で調べてみました。「未来を切り拓くポリシーのようなもの」とあったので、なんとなくそこを落とし所にしようとして、会場に乗り込みました。緊張で喉が渇き、当時の状況を思い出しながら話しているうちに涙腺が壊れそうになってしまい、言いたいことはいっぱいあるのに声が詰まって、結局ボロボロだった記憶だけが残っています。

私は家族で相談し、自主避難という道を選択しました。決して金銭と時間に余裕があったから、自主避難できたわけではありません。あの日、原発事故が発生し「見えないものに不安を抱える」という実体験をしました。自営業の仕事も、福島という理由だけでキャンセルが続き、見えなかったものが見える被害になり、いよいよ愛知に居住も職場も移す決断をしました。

仲間や友人、親兄弟、親戚を裏切るような気持ちと故郷への募る思い。自主避難が正しかったのか？ 自問自答を繰り返すうち、「自分だけ逃げられていいね！」「故郷を捨てた！」など、

誰かから言われたわけでもないのに、そんな声が聞こえてくるようになりました。

落ち込んでいた今年の冬、故郷に残る友人がこんな言葉をかけてくれました。「あの時『いわきを去る』と聞いた時は、行かないでくれ！と思った。でも今は違う！ 同じ立場ならきっと同じ行動をしていたと思う。だから、今度いわきに戻ってくる時に、いわきに帰らないでくれ！と愛知の人たちに言われるくらい頑張ってきてくれ！」と背中を押してもらいました。

「原発事故子ども・被災者支援法」は、“理念法”だそうです。私は法律家でもありませんので、この意味するところはよくわかりません。被災者一人ひとりの、被災状況も立場も環境も考え方も違う人たちからの要望をすべてとりまとめて、ひとつの方向性を見つけていくことはとても難しいことだと考えます。また、細かい要望を拾い出したらきりが無いとも思います。私はこの法律の第二条「基本理念」に、その思いが集約されているものと勝手に認識しています。

今でも「正確な情報」が国民に提供されているとは思えません。この理念法の基本理念に従い、政治家や国には行動して欲しいと願っています。

(吉田 拓也 小牧市在住(福島県いわき市出身))

~~~~~

今回はじめて「原発事故子ども・被災者支援法」に関するシンポジウムに参加しました。

今年、夏に保養プロジェクトで福島の子どもたちが私の勤める真宗大谷派(東本願寺)三河別院に泊っていただくというご縁がありました。そのことが機縁となり、私もより身近に被災者支援や福島の子どもたちの保養プロジェクトに関心を持つようになりました。

私も義母が宮城県出身ということもあり被災者支援や復興には関心があったのですが、恥ずかしながらこのシンポジウムに参加して「原発事故子ども・被災者支援法」のことは初めて知りました。また、ボランティア団体の皆さんが行政と協力して愛知県内でも被災者支援を大変

きめ細やかに実行されていることがよくわかりました。

私は、被災者の方のお話を直接お聞きするのはこのシンポジウムが初めてのことでした。テレビや新聞等では見聞きしていたのですが、今回のお話は、まったく報道されていないような深刻な事実が涙ながらに語られ、子どもをもつ親として涙なしには聞くことができませんでした。

特に放射能から逃げてきたのに、その避難先で肩身の狭い思いをしたり、いわれない中傷を受けたり、各地を転々と逃げ続けたり、ということがあったというのは、情けない限りで申し訳ない気持ちでした。しかし、一方で被災地

で暴動や略奪などが起こらず整然と列をなしてスーパーの買出しなどが行われたり、ボランティアの支援があったりと、ほっとするお話もありました。

それもこれも、政府が正しい情報を適切に伝えなかったことも大きな原因であると思います。今もってその対応には怒りを感じます。

だからこそ、政府、行政の出来ないことをや

りきめ細やかに活動するボランティア団体やNPOなどが必要なんだと感じました。私も、この子どもたちやお母さんお父さんのために私たちも出来る限り協力したいと思いました。

私たちの宗門（真宗大谷派）でもシンポジウムや保養プロジェクトを検討しておりますので、ぜひ協力させていただきたいと思います。（真宗大谷派（東本願寺）三河別院 佐々木 祐恵）

## 第6回 子育てつどいの広場 in 瑞穂区

日時：12月9日（日）10:30～14:00

場所：ボラみみより情報ステーション

主催：NPO法人 ボラみみより情報局

避難者参加者数：6世帯

（大人7名、子ども7名）

12月9日（日）に第7回子育てつどいの広場 in 瑞穂区に参加しました。

今回は4回目か5回目の参加でしたが、初めて(!) みんなで折り紙をつかったリース作りをしました。子どもたちも折り紙ができる子は一緒に作っており、出来上がりにはかわいいシールを貼って、楽しいひと時でした。

いつもここは実家に帰ってきたような、ゆるりとした雰囲気です。子どもたちが屋内公園のような室内で遊ぶ中、親たちはお茶を飲みながらおしゃべりができます。今回もお昼は名物のお好み焼き。小耳にはさんだところでは、「行列ができる店」のものらしいです。おやつ作りたてポップコーンは、遊びに夢中な子どもたちよりも親たちのほうがパリパリ食べていました。そんなゆったりした空気は、責任者Sさんの絶妙かつさりげない気配りと子どもたちをみてくださるボランティアの方々によるもので、感謝しきりです。

次回は1月20日（日）で、2月17日（日）の行事にあわせた簡単な仕事を計画しており、3月9日（土）には京都への日帰り旅行企画もあります。場所は地下鉄名城線 妙音通駅から徒歩1分以内、出口からまっすぐのわかりやすい場



所です。初めての方もぜひ気負うことなくご参加いただければと思います。

（齊藤優子 南区在住）

<お知らせ>

- 1) 第8回は1月20日（日）に、  
第9回は2月17日（日）に開催します。
- 2) 「赤いランドセル（新品）」ですが、まだ若干在庫があります。直接ご来所いただくか送料着払いでお渡しできます。必要な方はご連絡下さい。年齢制限はありません。
- 3) ボラみみより情報ステーションは、火曜・日曜・祝日をのぞく、月～土曜日の10時～16時に開設しています。冷暖房完備です。駐車場若干あり。通常、入会金が必要ですが、「あおぞら」をご持参いただければ、入会金不要です。2月末まで。

詳しくは、

ボラみみより情報ステーション

boramimist@yahoo.co.jp まで

〒467-0842

愛知県名古屋市瑞穂区妙音通2-40

横山ビル1階

TEL：080-4228-5356（10時～16時）

FAX：052-811-1812

<http://locoplace.jp/t000095629/>

## 原発賠償の経緯と今後の見通し

愛知県被災者支援センターから、表記の題で記事を書くよう依頼がありました。しかし、原発賠償の今後の見通しなど、雑談では話せても文字にできる状況ではなく、今後も変化があると思うし、我々も変えようと努力しています。しかし被災者の方々が、多少なりとも考えが整理できればと考え、現時点での状況を記すことにしました。あくまで個人的見解であり、感想程度の記事になることをご容赦ください。

東京電力福島第一原発事故により、1年9か月が経過した今なお、16万人弱の方が避難生活を余儀なくされ、線量が高いにも関わらず、種々の事情により現地に留まっている方を含めれば、150万人以上の被害者がいます。国及び東電は、この膨大な被害者の方々に賠償するという、かつて経験したことがない事態への対応を迫られています。

本来なら、東電を倒産させ、国が賠償問題を含め健康問題、除染問題等々全面的に被害者に対応すべきであり、このように多くの被害者に賠償をするのであるから、一定の基準を決め、こういう方には5,000万円とか、こういう方には200万円とか、一律の金額を決めて賠償をすべきでした。そうすれば、仮に賠償は少なくとも子どもの健康問題は充実したフォローがされる等、トータルでの支援体制ができ、被害者の方々も早期に前向きな気持ちになりえた可能性もありました。しかし、国は東電を残し、放射性物質の拡散からくる諸問題のうち、賠償問題のみを切り離して東電に負わせたのです。そして、文部科学省所管の原子力損害賠償紛争審査会は、個々人に応じた実損を賠償する方針を決め、昨年8月に中間指針を提示しました（個人的には低額に過ぎると思っています）。東電もこの指針を基本に、直接請求に応じて賠償をすることとなりました。これにより、被害者らは自分で自分の損害を立証しなくてはならなくなったのです。圧倒的大企業の東電に対し、個々の被害者が夜な夜な避難の経路を思いだし、領収書をそろえ、自己の損害を積算するという、膨大な人的資源が費消されることとなったのです。

実際の賠償の現場では、東電に直接請求する方法と、原子力損害賠償紛争解決センター（以下単に「センター」という）への仲裁を申し立てる方法が使われていますが、訴訟を提起する人も出始めました（区域内の方々ですが、12月3日に福島で提訴）。

東電は当初、慰謝料に生活費増加分を含むとの見解（中間指針にもそう書いてある）でしたが、非難に会い、避難に際し購入した家電等の生活費増加分は別途、賠償に応じることとしました。東電作成の請求書には、当初は合意書に清算条項（合意した場合はその損害については解決したもものとして、後にその金額では不満があるとして請求することはしないとする合意）がありましたが、これも非難に会い、撤回しました。これにより、東電が支払うというものは先に支払を受け、不満と感じる損害部分のみ後でセンターや裁判で請求するという手法が肯定され、直接請求が増大しました（財物損害の評価が低いので不満のある方は清算条項にご注意を）。ただ直接請求の場合、仮払補償金は支払うべき最初の賠償金と清算しているようです。

請求手続きは面倒なので、各地に弁護士ができ、センターへの申立を代理するようになり、仮払補償金の清算はしない（最後の最後とする）、一部和解を認め合意した損害だけ先に支払う、慰謝料の増額を認める、弁護士費用を東電に負担させる等の多少の改善点はありましたが、センターも原則中間指針を基本にしているため、金額については大幅な改善は見込めない状況です。

センター申立は昨年9月から始まりましたが、センターの話では本年11月までで、4,720件（人数にして1万1,000人程度）の申立があり、和解で解決した件数が1,012件、和解が打ち切られたり被害者が取り下げた件数が608件、現在3,100件が継続中とのことです。当初は申立てから3か月程度で結論を出す、とのことでしたが、人手不足が原因で、申立てから第1回の審理期日まで3～4か月、第1回の審理期日から和解案の提示までも、同じくらいかかっている、申立



## インタビュー 第3回

### 安城学園高等学校 生徒会の皆さん

急に寒くなり始めた11月中旬。安城学園高校を訪れると、遠くで部活動中の生徒が明るく挨拶してくれました。地域に開かれた学校である安城学園高校には正門が無く、地域の大人や子どもの生活場所に高校生の学び舎が存在しており、校舎も開放的で明るく過ごしやすい雰囲気がありました。

私は愛知県に自主避難してくる前、福島県福島市の私立高校で教員をしておりました。震災後に多くのボランティアが東北地方に足を運んでくださいましたが、その中に安城学園高校の名前があったことを記憶していました。さらに私立高校の教員研修会の中で、安城学園高校生の岩手県大船渡市へのボランティア活動の報告があり、私の中に「愛知の私学はすごいな」と強烈な印象として残りました。

避難後、新聞などの報道で安城学園の「震災」との関わりについて多くを知るようになり、「彼ら彼女らを突き動かしているものは何だろうか」と未来を担う若い力の話を知りたいと思うようになりました。

安城学園高校の坂田成夫校長先生や生徒会顧問の竹内徹先生のご配慮によって、今回のインタビューが実現しました。生徒会の皆様には勉強や学校行事の合間、忙しい時間帯にも関わらず、快くお話を聞かせていただき感謝申し上げます。

生徒会長の濱田樹君（普通科2年）をはじめ、8名の生徒会役員が笑顔で現れました。皆、地震発生時は中学を卒業したばかり、または中2だったそうで、TVなどを通して、東北の惨事を知ったそうです。当初はコンビニなどで募金の箱を見る機会があったのですが、そこに寄付を寄せるまでの気持ちにはならず、日常を送っていた…とのことでした。

震災1年目の夏、安城市が主催した「七夕ボランティア」として生徒会を中心に先輩達が岩手県大船渡市を訪れ、「自分たちにできることは何か」と模索しました。その活動を引き継ぐ

べく、前期に生徒会役員となっていた濱田君、高杉玲奈さん（普通科2年）、杉山由莉さん（普通科2年）は、今年の夏に仲間と市民の方々とともに安城学園としては2回目の大船渡市訪問を実現し、灯籠山車の引き手や盆踊りの飛び入りなど祭りに参加し、大船渡東高校へも訪問しました。

震災1年目の偶然の出会いで大船渡東高校の生徒との交流が始まり、現在でも親密な繋がりがあがるそうです。さらに、安城学園の学園祭で大船渡東高校の生徒を招待し、「未来へつなげる」と題し、シンポジウムを行いました。

大船渡東高校生との交流の中で、「震災について」話をしたことはあまりない、と三人は語ってくれました。大船渡市では祭りを一緒に思いっきり楽しみ、それ以外は日常の会話をして、お互いの情報を交換するなど普通の高校生同士の会話がほとんどだといいます。その裏側には、「震災」という具現化し易い現実だけでなく、日本社会に生きる全ての高校生が抱える、言葉では言い表せない「生き辛さ」を共有した、本物の優しさに由来する交流の仕方があるのかもしれないと気付かされる一場面でした。安城学園高校生徒会の震災との関わりは、「支援」という上から目線のエゴではない等身大の高校生としての「協同」「共存」なのではないかと思えます。

学園内では「震災」について考えることに温度差があり、大船渡との交流についてもっと知ってもらいたいと高井臯月さん（商業科2年）は語ります。生徒会での活動をもっと多くの人に伝えるためにはどうしたらよいかと模索中のようなのですが、街頭募金をした時も、その善意の寄付がどこに行くのかあいまいであったため、もっと自分自身も説明できるように勉強しなければと感じたそうです。西尾友梨香さん（普通科1年）は忘れないことや伝え続けることは大切だが、親に話したりしない…と「協同」としての関わり方を大切にしていました。

中根響子さん（普通科 2 年）は「原発」について中学時代に新エネルギーのひとつとして学んだと話してくれました。しかし、実際にどのようなメカニズムで発電しているのか、あまりよくわからないとのことでした。加納咲里さん（普通科 1 年）は中 3 時に岩手の中学にボランティアで行く途中、福島を通り、ここが原発のある県だよと説明されたが、音も色も無い放射能の存在にはピンと来なかったと語ってくれました。

「明るい未来にしたい。私自身は楽しいけど、全体ではいろいろあるから」と最後に語ってく

れた杉浦亜杜莉さん（普通科 2 年）。まだまだ震災について、多くのことを知り、後世に伝えていかないといけないと再認識をした生徒会役員の皆さん。そして数年後には日本社会を作って、切り開いて行く若い力の存在を再確認した私。支援者と被災者の各自ができることは、本当に幅広く、無限の可能性のあることを確信したインタビューとなりました。そして、もっともっと高校生に迫ってみたいと思いました。そこには大人が忘れてしまったヒントが隠されている気がするから。

（愛知県被災者支援センター 編集委員  
聞き手・文責：小野佳奈）

---

## 囲碁クラブに参加して

10 月の囲碁クラブ発足式は、初対面の方々の出会いに少し緊張もしましたが、11 月 24 日の 2 回目はゆったりした気持ちで臨めました。月 1 回開催の囲碁クラブは、アットホームな雰囲気です。

私たちは、日本棋院中部総本部のプロ棋士、松本先生に指導碁を打っていただいています。私はプロ棋士に初めてお目にかかり、予期しなかった指導碁に感激もひとしおです。松本先生から置碁というハンディ戦を通し、堅実な手法やびくびくしないで積極的に打つことの大切さを教わりました。前は 8 子局、今回はひとつ減って 7 子局でした。石の数がひとつ、ひとつ減っていくことが、上達につながるのを楽しみます。

私はボケ防止にと、65 歳で囲碁を始めました。原発事故避難から中断していましたが、皆様のお陰でまたできるようになったことに、心から感謝しています。クラブに参加している方々は、経験を積まれた方や、全くの初心者の方まで様々です。5 歳のお子さんも、参加しています。初めての方も、一から親切に教えてくださる指導者がいらっしゃるので、心配いりません。もっと気軽にたくさんの方に、参加していただきたいと思います。碁の合間に差し入れていただく菓子や素敵なお茶碗でいただくお茶は、とてもおいしく幸せな気持ちになります。私たちを思ってくださいのお心配りが、有難いです。



このクラブは、人付き合いが億劫になりがちな高齢者のために開かれた、と聞いています。しかし、若い人にも碁に関心を持っていただきたいとも思います。京都大徳寺の塔頭に、徳川家康公の使われた碁盤がありました。豪華絢爛の装飾も素晴らしかったのですが、擦り切れて見えにくくなるまでになった盤面を見て、家康がいかに碁を大切にしていたか思いを馳せたのです。家康は碁から戦術・戦略を練ることの重要性や、大局観に立つてものを考えることを学んでいたのかもしれない、と思いました。碁にはいろいろな楽しみ方がありますから、仕事から離れて気分をリフレッシュするだけでもお勧めです。

クラブ設立から運営に至るまで、被災者支援センターや県当局、そして日本棋院中部総本部の、全面的なご協力を賜っています。関わられているすべての方々に、心からお礼を申し上げます。

囲碁クラブは碁の醍醐味を堪能できるとともに、新しい出会いの場となっています。

（黒津忠勝 蟹江町）

## ふるさと祭りいも煮会に参加して

去る12月2日(日)「発達センターあつた」にて『ふるさと祭りいも煮会』が行われました。寒い時期でもあり、参加者が少ないのではないかと心配されましたが、参加者24世帯65名(大人37名、子ども28名)、約100名の支援ボランティアの方にも参加していただき、楽しく賑やかな会となりました。いも煮会は故郷福島での秋の恒例行事で、毎年近くの河原などで仲間と鍋を囲み親睦を深めあつたものでした。ここ愛知でもみなさんといも煮会ができたらいいなあと思っていたところ、この企画を知り、真っ先に申し込みをしました。いも煮鍋につきたてお餅、浪江焼そばにやきとり…と温かく美味しいものを味わいながら、久しぶりにあつた方々と話に花を咲かせました。またステージの方も大盛り上がりで、バンドの演奏(プロ級?)を聴いたり、元プロのバンドのメンバーだったというパーカッション奏者の方と一緒にみんなで太鼓をたたいたり、いつのまにか寒さを忘れ、身も心もぼかぼか温かくなりました。

3.11後、悩んだ末に去年の12月の半ばに故郷福島を離れ、愛知で暮らすようになり、ちょうど一年となるこの時期、生活や風土にも少しずつ慣れ、振り返ってみると、あつという間の一年でした。縁があつて名古屋市で暮らすようになりましたが、知り合い縁者がいないこの土地で寂しい思いをせずにやってこられたのは、同じような思いで故郷を離れた方々と、いろいろな交流会を通して出会えたからだと思ひます。交流会へ来ると、故郷にいるような居心地の良

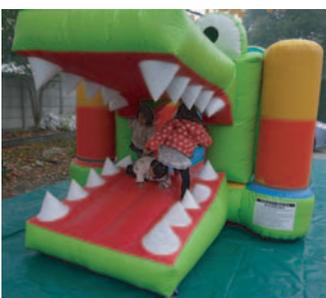
さを感じます。

交流会に参加して、いつも思うことは、会を支える被災者支援センターの方々を始め、ボランティアの方々の力です。私たち被災者のために、手間や労力を惜しまずに、忙しい時間を割いて企画準備運営してくださったり、心のこもった美味しい料理を作ってくださいたり…感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

今回、初めて参加された方も何名かいらっしゃいましたが、すぐにみなさんと打ち解けられて、「来てよかった!」と話されていました。初めて参加する時は、どうしようかとなかなか決断できないかと思いますが、是非ぜひ気軽に参加してほしいと思ひます。住み慣れた故郷を離れ、遠く愛知の地で暮らす者同志、思いは同じです。いろいろ話をするだけで心が軽くなり、みなさんからパワーをいただき、また明日からがんばろうという気持ちになります。参加したくても今一步踏み出せないみなさん、是非一緒に交流会へ参加しませんか。

3.11後、いろいろな理由で故郷を離れて全国各地で暮らす方々が多いですが、その中でも愛知県は支援体制がとても整っていると思ひます。地元の方々もとても温かくて、愛知に来てよかったと改めて感じています。これからずっと愛知に住むか、または離れるかそれぞれ事情は違ふと思ひますが、縁があつて今この地で出会った私たちの絆を大切にしていきたいです。

(安藤まり子 昭和区在住)



## あおぞら・情報掲示板

### /// Select Shop EUROPA ///

福島から名古屋市内に拠点を移し New Open しました！  
メンズ & レディースのセレクトショップ EUROPA(エウロパ)です！

国内物から、ヨーロッパ、アメリカ買付け品等、大人カジュアルスタイルを提案しています。

「あおぞら」を見た方、避難者の方は、レジにて 20% OFF にします。

テレビ塔近く、セントラルパーク隣の雰囲気ある場所にあるお店です。

ぜひ見においでください！

住所：名古屋市東区泉 1-14-23

ホワイトメイツ 3階

TEL：052-253-6221

営業時間：11:00～20:00 定休日 火

shopping

### お食事

### /// 庭園ギャラリー いち倫 ///

ギャラリーとついでにありますが、カフェです。日本庭園を眺めてゆったり過ごすことができます。使う水(石清水)まで全て、三重県産メイン。お米や野菜は無農薬・減農薬にこだわる三重県松阪市の農家から仕入れ、お茶、和紅茶は伊勢茶。時々作家の個展などイベントが開催されます。お食事メニュー竹箸(1,500円)は1日限定30食。大人気のため、予約が無難。

住所：名古屋市千種区西山元町 1-58

電話：052-751-1953

地下鉄東山線覚王山駅 1番出口、日泰寺西門前

営業時間：10:00～17:00

月火第2水曜休み

毎月21日(弘法さんの縁日)は営業

### 遊び場

### /// 小牧市民温水プール ///

造波プール、流水プール、25mプール、3基のスライダーがあります。

冬でも室温32℃、水温30℃に保たれ快適な環境で、公共施設とは思えない設備と低料金で楽しめる、オールシーズンの温水プールです。

2人乗りの漂流スライダーは、全長109mの浮き輪に乗ってすべるスライダー。左右にバンクスリル満点、トンネルに入り建物の外へ伸びたスロープから屋内に着水します。100m級、40m級スライダーもあり、小学生以上なら誰でも滑れます。

高校生以上の大人：510円

小中学生：210円

未就学児：大人1人につき1人まで無料。  
2人目は小人料金210円。

年末年始：12月28日(金)～1月4日(金)休場  
新年は1月5日(土)午前10時より営業

営業時間：平日 13:00～20:00

土日祝 10:00～20:00

住所：〒485-0806 愛知県小牧市大字野口 2394-3

TEL：0568-78-0102

FAX：0568-78-1429

遊び場

### /// 東海市しあわせ村 ///

名鉄電車で知多半島方面へ向うと、左手に現われる大仏。昭和2年5月21日、昭和天皇のご成婚を記念して開眼供養されました。鉄筋コンクリート製で、高さは18.79mと、鎌倉の大仏(11.5m)より大きい聚楽園大仏です。

「しあわせ村」は、広い聚楽園公園は、ハーブ園やキャンプ場、水辺の生態園などがあり、子どもも大人も楽しめます。また、遊べる温水プールや14種類のお風呂がある「健康ねわあい交流館」もお勧め。

茶室「嚶鳴庵」(10:00～16:00)で、和風庭園を眺めながら抹茶(300円)を一服いただくこともできます。

住所：東海市荒尾町西廻り2番地の1

名鉄電車「聚楽園駅」下車、東へ徒歩5分

駐車場：8:30～21:30(無料)

### 健康ねわあい交流館

温浴・プール

大人：500円

小・中学生：250円

幼稚園以下：無料

営業時間：9:00～21:00

温浴プールは10:00～21:00

休館日：月曜日

※祝日は営業、翌日休館

プールのみ第2・4月曜は臨時営業

臨時営業時間 10:00～17:00

年末年始

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。

## あおぞら・情報掲示板

子育て

/// 赤ちゃんの駅 /// ~ mapily ~

赤ちゃんの駅とは、乳幼児を連れられた方が、授乳やおむつ替えをできる施設のこと。東京都板橋区で始まった「赤ちゃんの駅」は、今では全国に様々な名称で広まり、愛知県内でも、豊橋市、犬山市などいくつかの自治体で運営されています。名古屋市内では、全国的にも珍しい民間ママ発信により、企業や店舗、子育て支援施設の方々のご協力を得て、少しずつ広まり、まだ地域に偏りがありますが、市内に70箇所ほどに普及しています。

授乳やおむつ替え、保護者自身のトイレ、トイレ中の子どものトイレなど、ちょっとしたお散歩や買い物、お出かけなどで、赤ちゃんと一緒に、無料で立ち寄ることが出来る場所があるというのは安心しませんか？

もう一つ、mapily「赤ちゃんの駅」の特徴は、“プレミアム（妊婦さん）も利用できる”という点。お腹の張りや、頻尿など、悩みも出てきますよね？ そういったときに頼り、立ち寄り、そして産後のおでかけのイメージをぜひ広げてみてください。

たまたま見つけて飛び込んで助かったぁ～というママの声。HPをご覧になって、赤ちゃんの駅の施設へ、遊びに行ってみましたというママの声。

mapily「赤ちゃんの駅」を発信している私達は、名古屋が地元ではありませんでした。人それぞれの子育てのスタイルがあるように、様々な活用場面がある赤ちゃんの駅。地域の繋がりが温かさを感じるきっかけの一つになったらいいな、そう思います。

※ 詳しい実施場所や利用可能時間、利用できる項目などは、ホームページからご確認ください。

名古屋市

<http://mapily.com>

蒲郡市

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/jido/akachan.html>

豊橋市

[http://www.city.toyohashi.aichi.jp/bu\\_fukushi/kosodateshien/akachan.html](http://www.city.toyohashi.aichi.jp/bu_fukushi/kosodateshien/akachan.html)

田原市

<http://www.city.tahara.aichi.jp/life/baby/facility2.html>

半田市

<http://www.city.handa.lg.jp/contents/00000069.html>

犬山市

<http://www.city.inuyama.aichi.jp/kurasu/kosodate/05/05-01.html>

知立市

<http://www.city.chiryu.aichi.jp/0000007040.html>

碧南市

<http://www.city.hekinan.aichi.jp/kodomoka/003kosodate/babystation/babystation.htm>

尾張旭市

[http://www.city.owariasahi.lg.jp/c\\_navi/sosiki/shienshitsu/asaniko/baby/index.html](http://www.city.owariasahi.lg.jp/c_navi/sosiki/shienshitsu/asaniko/baby/index.html)

### ◆ 応募方法

◎ メールまたはFAXにて

E-mail : [aozora@aichi-shien.net](mailto:aozora@aichi-shien.net) FAX : 052-954-6993

◎ 文字数 : 1情報につき 200字以内

◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。

(実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください)

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

◆ 皆様からの情報をお待ちしています。

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。

# 赤ちゃんの駅ってなあに？

乳幼児を連れた方が、授乳やおむつ替えをできる施設のこと。

東京都板橋区で始まった「赤ちゃんの駅」は、今では全国に様々な名称で広がっています。また、地域によって内容も少しずつ異なります。ここ名古屋では、mapily「赤ちゃんの駅」という名称で、“プレママ（妊婦さん）も利用できる”赤ちゃんの駅として、2012年2月15日、全国では珍しく民間のママ団体主体でスタートしました。名古屋市内11区21駅で始まったmapily「赤ちゃんの駅」は、多種多様な施設のご協力を得て、開始から7ヶ月で、14区、59駅まで広がっています。



名古屋で授乳やおむつ替えに困ったら...

mapily「赤ちゃんの駅」へGO！

登録施設には、左記のステッカーを掲示しています。

☆ 誰が利用できるの？

→乳幼児を連れた方、妊婦（プレママ）

☆ 利用料は？

→無料です。「赤ちゃんの駅の〇〇に使わせてください」と伝えましょう。

☆ いつ使えるの？

→施設によって異なります。

☆ 何ができるの？ →各施設で異なります。

—6つのサインで表し、その施設で利用できるサービスのみ、ステッカーに表示しています—



プチってなあに？ ... 専用設備ではなかったり、いつも空いているとは限らない場所。

各項目の詳細や、mapily「赤ちゃんの駅」について

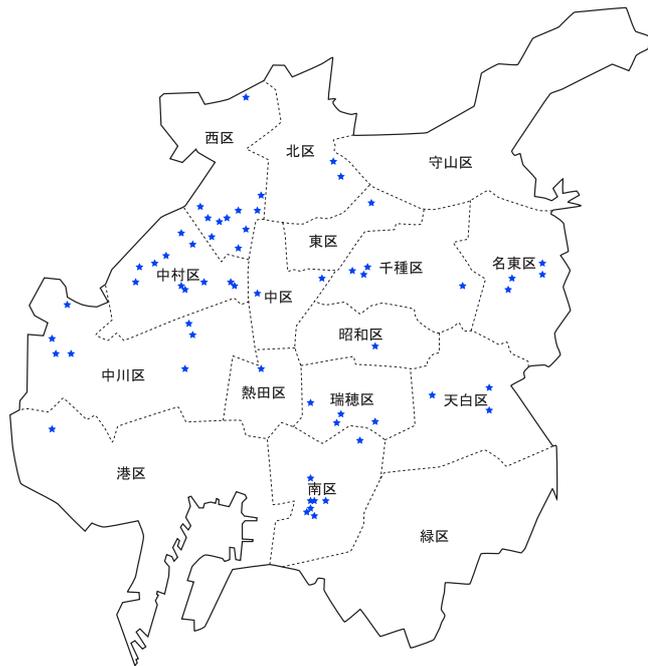
詳しくはこちら



mapily

<http://mapily.com>

## 名古屋各区に広がるmapily「赤ちゃんの駅」♪



|     |     |    |     |     |   |
|-----|-----|----|-----|-----|---|
| 中村区 | ... | 11 | 港区  | ... | 1 |
| 西区  | ... | 10 | 瑞穂区 | ... | 4 |
| 千種区 | ... | 4  | 中川区 | ... | 7 |
| 北区  | ... | 2  | 名東区 | ... | 4 |
| 天白区 | ... | 3  | 熱田区 | ... | 1 |
| 東区  | ... | 1  | 中区  | ... | 2 |
| 昭和区 | ... | 1  | 南区  | ... | 8 |

2012.9. 現在

### 【施設例】

保育園・幼稚園・子育て広場といった子育て関連施設、スイミングスクール、自動車販売店、寺院、コミュニティセンター、銭湯、雑貨屋、ショッピングセンター、一般企業（事務所）、不動産屋、福祉施設、治療院、助産院、歯科、薬局、飲食店、南児童館 etc 南区役所、南生涯学習センター、南図書館、南保健所、日本ガイシアリーナ、日本ガイシホール

**2012.9月現在、14区59駅まで拡大中！**

## ☆ mapily「赤ちゃんの駅」ご登録施設を募集しています ☆

### 募集条件

次の1～6の項目のうち、2つ以上（1か2のどちらか一方は必須）の設備を備えており、その設備の利用を希望する方に、無料で提供していただける施設及び事業者の方。

（※ 現時点では名古屋市内の施設及び事業者の方に限らせていただいています。）

1. 授乳の場（授乳室、人目を気にせず授乳できる場所など）
2. おむつ替え場所（ベビーベット、ベビーシート、和室など。及び手洗いができる場所）
3. プレママ休憩（ちょっと休むことができる、トイレを使用できるなど）
4. 保護者のトイレ（ベビーキープ、ベビーカーが入る、保護者が利用時、子どもを見てもらえるなど）
5. 子ども用トイレ（補助便座、小さなトイレなど）
6. その他子どもサービスの提供（電子レンジ使用可、離乳食スペース、子育て相談など）

☆ 専用の設備でなくてもご登録いただける「プチ登録」もごぞいます。詳しくはお問い合わせください☆

## ☆ 『一日赤ちゃんの駅』ボランティア会員募集中！ ☆

イベント時に『一日赤ちゃんの駅』のお手伝いをしていただける方を募集しています。

お問い合わせは [info@mapily.com](mailto:info@mapily.com)までお気軽にどうぞ！

※ mapily「赤ちゃんの駅」は、ママの任意団体MaChild（まちるど）が、名古屋市内で募集・普及の活動しております。



For foreigner  
Got any questions about life in Aichi?  
Please feel free to drop by call or email us anytime.



☆ Nagoya International Center

English ・ portugês ・ español ・ 中国 ・ 韓国 (hangul) ・ filipino ・ ベトナム (tieng-viet)

Nagoya-shi Nakamura-ku Nagono 1-47-1 Nagoya Koksai Center 3F

TEL : 052-581-0100      Email : info@nic-nagoya.or.jp

☆ Aichi International Association

English ・ portugês ・ español ・ 中国

Nagoya-shi Naka-ku Sannomaru 2-6-1 Sannomaru Annex Building 1 & 2 F

TEL : 052-961-7902      Email : sodan@aia.pref.aichi.jp

☆ Toyohashi Tabunka Kyosei ・ Kokusai-ka

English ・ portugês ・ español

Toyohashi-shi Imahashi-cho 1

TEL : 0532-51-2007      Email : kyoseikokusai@city.toyohashi.lg.jp

☆ Okazaki-shi Libra International Community Center

English ・ portugês ・ español ・ 中国 ・ filipino

Okazaki-shi Koseidori nishi 4-71

TEL : 0564-23-6480      Email : libralicc@city.okazaki.aichi.jp

☆ Ichinomiya International Association (iia)

English ・ 中国語 ・ filipino

Ichinomiya-shi Kisogawa-cho Uchiwariden Ichi-no-Tori 27

TEL : 0586-84-0014      Email : iia-138@owari.ne.jp

< Welcome Salon for Multicultural Exchange & Consultation >

Ichinomiya-shi Honmachi 4-1-9 come-cafe Sanpachiya

(1st, 2nd, & 3rd Sunday of the Month from 13:30 - 16:00)

TEL : 0586-84-0014      Email : kokusai@city.ichinomiya.lg.jp



☆ Toyota International Association

English · português · 中国

Toyota-shi Kozakahonmachi 1-25 Toyota Industry and Culture Center 3rd Floor

TEL : 0565-33-5931      Email : tia@hm.aitai.ne.jp

☆ Komaki-shi Life & Exchange Division

English · português · español

Komaki-shi Horinouchi 3-1 Komaki City hall Main Bldg 2F

TEL : 0568-76-1173

☆ Aichi Legal Support Center (reservation required)

English · português · español · 中国 · 韩国 (hangul) · filipino

Nagoya-shi Naka-ku Sakae 4-1-8 Sakae Sunshine Building 15F

TEL : 050-3383-5460

☆ Mikawa Legal Support Center (reservation required)

English · português · español · 中国 · filipino

Okazaki-shi Juoh-cho 2-9 Okazaki City Hall west Building 1F

TEL : 050-3383-5465

☆ Medical Information Center Aichi (MICA)

English · português · español

Nagoya-shi Nakamura-ku Meieki Minami 2-11-43 Nissho Bilding 2F NPO Station

TEL : 052-588-7040      Email : mica@r6.dion.ne.jp

